

視覚障がいの理解のために

- 「視覚障がい」とは、目が見えない、または見えにくいといったことから、まちを歩いたり、読み書きをしたり、身の回りの事をする時などに困ってしまうことがある状態です。
- 見え方は、「全く見えない」「ぼやけて見える」「中心だけしか見えない」「中心が見えない」などさまざまですし、「明るさ」や「色」がわかりにくい人もいます。
- 音声や点字、手でさわることや匂いなどで必要な情報を得ています。しかし、点字については、わからない人が多いです。
- 外出する時は、白杖を持ったり、盲導犬を連れったり、家族や友人又はガイドヘルパーと出かけます。

心のこもったコミュニケーションのポイント

目の不自由な人は、困っていても周りの様子がわからないために援助を求めにくいのです。戸惑っている姿を見かけたら「何かお手伝いしましょうか」などと、声をかけてください。どうすればいいのかは、本人に聞きましょう。声をかけてもらう事で安心して外出する事ができるのです。

盲導犬

ハーネスをつけているときは「**仕事**」中です。仕事中の盲導犬を見かけた時は、盲導犬に声をかけたり、触ったりしないで温かく見守ってください。



歩行補助の設備として黄色い誘導用ブロックが設置されています。その上に自転車などの障がい物を置かないでください。

① 声のかけ方

できるだけ正面から声をかけてください。「何かお困りですか…」「何かお手伝いしましょうか…」と声をかけてもらう事で援助を必要としていれば依頼されます。



② 具体的な言葉で

「危ない」という言葉だけでは伝わりません。「自転車が沢山あります」「前に車が停まっています」など具体的に周りの様子を言葉で説明してください。危険な場面では説明だけではなく、安全な場所へすぐに誘導してください。

③ してはいけないこと

体を後ろから押さないでください。腕や白杖をつかんで引っばらないでください。見えない人は直接自分の手や白杖で安全が確認できないと不安に感じます。



後ろから押さないでください



引っばることはしないでください

④ 盲導犬にしてはいけないこと

食べ物を与えないでください。また、仕事中の盲導犬と目をあわせたり、話しかけたりしないでください。

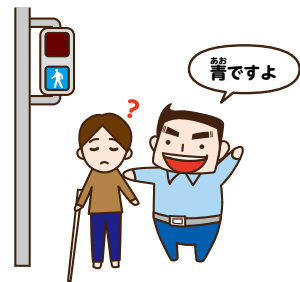
⑤ 道路を歩くとき

スマホやケータイなどの「ながら歩き」はやめましょう。目の不自由な人に気づかないことでぶつかることがあります。

私（わたし）たちにできること

① 横断歩道・交差点（おうだんほどう・こうさつてん）で

道路（どうろ）を渡る（わた）タイミング（たいみんぐ）の判断（はんぱん）が難しい（むずかしい）です。音響（おんきやう）信号機（しんごうき）のついていない横断歩道（おうだんほどう）ではとても不安（ふあん）です。信号機（しんごうき）が青（あお）に変わった時（とき）に「青（あお）になりましたよ」「ご一緒（いっしょ）しましょうか」などと声（こゑ）をかけましょう。



② 駅（えき）のホーム（ホーム）で

ホーム（ホーム）では転落（てんらく）事故（じこ）の危険（きけん）性（せい）があります。電車（でんしゃ）とホーム（ホーム）との隙（すき）間（ま）や段差（だんさ）にも気（き）をつけて「ご案内（ご案内）しましょうか？」など声（こゑ）をかけましょう。



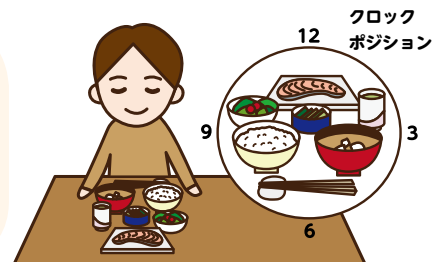
③ トイレ（トイレ）で

異性（いせい）の場合は、近く（ちか）にいる同性（どうせい）の方にサポート（さぽーと）をお願い（ねが）いましょう。要望（ようぼう）があれば、便器（べんき）の種類（しゆるい）・位置（いち）・向き（むき）・水（みづ）の流（なが）し方（かた）、トイレットペーパー（かぎ）や鍵（かぎ）の位置（いち）などを説明（せつめい）します。



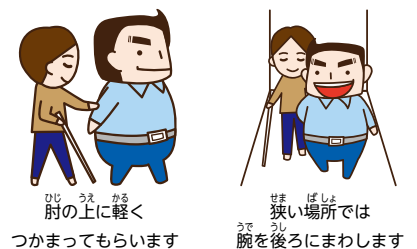
④ 方向（ほうこう）や位置（いち）を伝える（つた）時（とき）

物（もの）の位置（いち）や進行（しんこう）方向（ほうこう）などを知らせ（し）るときは、「ここ（ここ）」「あそこ（あそこ）」「むこう（むこう）」などではなく、時計（とけい）の文字盤（もじばん）にたとえるクロック（クロック）ポジション（ポジション）（3時（3時）の方向（ほうこう））など具体的（くわいてき）に伝（つた）えましょう。



⑤ 一緒（いっしょ）に歩く（ある）（誘導（ゆうどう）歩行（ほこう））

サポート（さぽーと）する人（ひと）が半歩（はんぽ）前（まへ）に立（た）って、肩（かた）か肘（ひじ）をつかま（つかま）ってもら（もら）って歩（あ）ります。目（め）の不自由（ふじゆう）な人（ひと）は、サポート（さぽーと）する人（ひと）のからだ（からだ）の動き（うご）きを感じ（かん）取り（と）りながら歩（あ）ります。

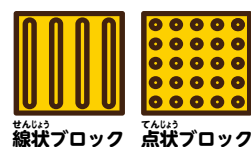


生活上（せいかつじょうじやう）の支援（しえん）

① 誘導（ゆうどう）用（よう）ブロック（ブロック）

駅（えき）や横断歩道（おうだんほどう）などで良く見（み）かける誘導（ゆうどう）用（よう）ブロック（ブロック）は、目（め）の不自由（ふじゆう）な人（ひと）が安全（あんぜん）に外（そと）を歩（あ）ること（こと）ができる（できる）ように考（こう）案（あん）された（された）もの（もの）です。

線（せん）の形（かたち）で移動（いどう）の方向（ほうこう）を示（し）す線状（せんじやう）ブロック（ブロック）（誘導（ゆうどう）用（よう））と点状（てんじやう）ブロック（ブロック）（警告（けいこく）用（よう））の2種類（ふたしゆるい）です。



② 白杖

ドライバーや他の歩行者・警察などへの注意を促す役目をします。また、目の不自由な人が歩く時に障がい物や段差などを路面にふれて確認するための杖が「白杖」です。

視覚障がい者は白杖をもつ事や盲導犬を連れて道路を歩くことが、法律で認められています。

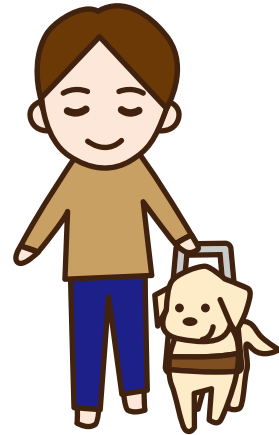


③ 盲導犬

盲導犬育成施設で訓練を受けた犬が「盲導犬」です。

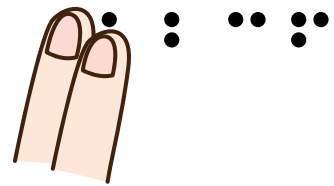
視覚障がい者の歩行を助ける大切なパートナーであるとともに、自立生活の大きな支えです。

使用者は、ハーネス（胴輪）をにぎって指示を出し目的地まで移動します。また、盲導犬は色がわかりませんので、信号機のそばで見かけたら「青ですよ」「渡れますよ」など声をかけましょう。



④ 点字

視覚障がいのある人が指先の感覚で読むことができる文字が「点字」です。たて3点横2点の6つの凸点の組み合わせによって50音や数字、アルファベット、記号などを表します。



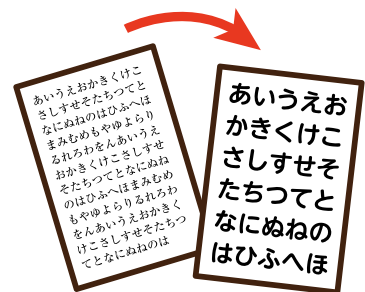
⑤ 音声訳

文字、記号、符号、マークその他を声を出して説明する事を音声訳と言います。聞き手（視覚障がい者）が理解し、聞きやすい言葉（音声訳）にした物を録音し、目の不自由な人に届けています。



⑥ 拡大写本

文字を読むのが難しい人に、最も読みやすい文字の大きさで書き写したものが「拡大写本」です。弱視のため見えにくい方も多く、見え方も様々です。その人の見え方に合った個別の対応がされています。



⑦ ガイドヘルパー

視覚障がいのある人の外出をサポートしてくれる人が「ガイドヘルパー」です。買い物や旅行に行く時などにサポートする事で、自立と社会参加のお手伝いをします。